

金属製バットの日常点検と取り扱い

金属製バットの安全性と耐久性については、現在、製品安全協会が定めた新安全基準で品質の管理が図られています。しかし、金属製バットにもそれなりの寿命があり、使用回数に比例して金属が疲労し、ヒビ割れや表面のしわ、へこみなどの変化が現れてきます。

したがって、危険な折損事故を未然に防止するためにも、各チーム自身で必ず使用前の点検をすることが大切です。

そこで審判委員の皆さんも以下の内容をご承知おきいただき、大会前の加盟校への指導、徹底や、担当される試合前の点検を励行して下さい。

(1) 点検の方法

点検は、目視と触感でへこみやヒビ割れが生じていないかを確認する。このとき打球部だけでなく、先端、テーパー部（バットが徐々に細くなっている部分）、グリップ部など全般にわたって注意する。

なお、2022年に定めた新基準バットは打球部を肉厚に設計しているため、打球部付近の変形により先端部に取り付けてあるキャップやバット本体の先端部付近に変化が現れる可能性があるため、特に留意すること。

(2) 記録の保存

金属製バットの品名・品番、購入年月、購入先さらには実際の使用開始日などを記録し保管する。

(3) 点検の励行

金属製バット点検担当者を定め、毎日、練習前にその日使用するバット全部を必ず点検して、異常の有無を指導者に報告させる。

(4) S G マークの点検

S G マーク〔高校野球特別規則 1 参照〕がきちんと付いているかを確認する。

(5) 令和 6 年（2024 年）春季大会からの使用制限の新基準品の識別

従来は、グリップ部上部の製造年月のアルファベットに続き、N（ニュースタンドアの略）が表示されていましたが、替わって新基準品は R（リパルション＝反発の略）を表示していますので確認して下さい。

〈参考〉

旧基準品 B B. J A - N（22 年 1 月の略）

新基準品 B C. J B - R（23 年 2 月の略）

アルファベットの記号は、A が 1 で、B が 2 と順に表記します。

(6) 事故品の届け出

いわゆる寿命による疲労ではなく、新しいもので不審な折損やヒビ割れ、変形の生じたバットがあった場合、破損した箇所を保存したうえで、各都道府県連盟を通じて日本高等学校野球連盟に届け出ること。